

ある日、 とつとつとつとつ 限界が来た。

好奇心をくすべられ入学した国際教養学部

「聞けば聞くほど、ワクワクしました」。1年次から留学に行ける国際教養学部のカリキュラムを聞いたとき、好奇心旺盛な村松の心は惹きつけられた。大きな期待を胸に入学したものの、元々英語が得意ではなかった村松は授業についていけず、ひたすら笑ってごまかした。放課後も膨大な課題に追われる日々。ベッドに向かう頃には、時計の針は午前2時を過ぎていた。

ある日、とうとう限界が来た。「何も聞こえない」。活発なグループディスカッションが繰り広げられる中、もはや笑うこともできず呆然とした。「Are you alright?」心配した教員に声をかけられた瞬間、辛かったこれまでの思いが溢れんばかりの涙となつてこぼれ落ちた。

新しい環境で開花した自分(こ)ちゃん

「留学で壁を破り、自分を変える」。そう強く誓い、アメリカ留学がスタート。初めて過ごす異国の地は、何もかもが新鮮でワクワクした。「もっと知りたい、話したい」。好奇心のまま多くの友人と話し、学び、気がつけば周りを気にせず楽しく英語を話せている自分がいた。

帰国後は、好奇心のままに「次は発展途上国へ」とマレーシアへ飛び立った。社会学、経済学、哲学といった異なる分野で学ぶメンバーとともに、マレーシアをより良くするための政策提言を行った。各々の専門分野をいかし協働したからこそ、多民族国家ならではの課題や魅力を発見できた。この経験を機に、問題の背

景にある社会構造に興味を持つようになった。

そして迎えた就職活動。「将来、誰のために何がしたいのだろう」と考えてもなかなか答えが出せず、先輩に相談した。「一つの分野に決めなくてもいいんじゃない？」予想外の言葉にハッとした。国際教養学部での幅広い学びを通じて得た多様な視点が、自分らしさだと気づいたのである。複雑に絡み合う社会課題を幅広い視野から解釈し、すべての関係者に利益をもたらす仕組みを作っていきたい。その想いを胸にコンサルティング会社への就職を決めた。

「何も恐れず、挑戦してほしい。自分の可能性を無限大に広げられる環境が国際教養学部には整っています。国際教養学部での学びが、まさに今仕事でいきています」。そう語る村松の本当の挑戦は、まだ始まったばかりだ。



Satomi Muramatsu
村松 里美

《目標達成力》
《対人基礎力》
《論理的思考力》

アクセンチュアで働くうえで
私が必要と思う
SOKA Generic Skill

学生生活のTOPICS

【グローバルな学部授業】
国際社会の異なる要素をそれぞれ議題に取り上げ、留学生とともに学習する学部の授業で、国内に留まることのない興味や関心を深めさせてくれました。また、そうした授業や学部内交流を通し、社会の構造全体を変えるような影響力のある仕事に興味を持ちました。



【アメリカ留学】
苦手な英語に挑戦し、現地学生と交流することで、文化の壁を超えて多様性を受け入れる重要性を学びました。自動車配送サービス「Uber」や、セルフレジ、キャッシュレスの普及を目の当たりにした時、人々の「当たり前」を変えるツールとしてのITの可能性を実感しました。



【マレーシア研修】
1ヶ月間の事前研究後、マレーシアで2週間の調査を実施し、マレーシアが抱える社会課題とそれに対する解決策を現地大学の教授へ提案するチームプロジェクトを行いました。実際に他国が抱える課題を目の前にし、複雑な社会構造を捉え解決に向かわせることがいかに高難度かを学びました。



accenture への道

卒業生訪問
卒業生で実際に働く方の声を聞くことで、一見わかりにくいコンサルタントのリアルな「働き方」を理解できる。

自己分析
キャリアを通して自分が本当にやりたい、成し遂げたいことを発見できる。

友人と集まって選考対策
グループディスカッションやケース面接は、友人と繰り返し実践することで、新しい視点や自分の強みのいかし方を習得できる。